幼保小連携・接続モデル実施園公開研修会 報告書【若竹保育園】

日　時　：　平成 30 年 2 月 5 日（月）14:00～16:00
場　所　：　若竹保育園

参加者数

種別	園(校)数	参加人数
私立幼稚園（認定こども園）	７	８
民間保育園（認定こども園）	３７	４２
公立保育所（認定こども園）	１９	２１
小学校	６	９
その他（大学・千葉県など）	５	１５
合計	７４	９５

千葉市の幼保小連携･接続の取組(千葉市幼保支援課)

資料に基づき、千葉市幼保支援課から説明

モデル実施園の取組成果発表(若竹保育園)

≪山﨑副園長･野村先生(年長担任)から成果発表≫

○　アプローチカリキュラム作成として、①園内研修②小学校との交流③月案の作成、の 3 点に取り組んだ。

○　①園内研修として、職員全員に新指針を配り、会議でその要点と、10 の姿について動画を見ながら勉強会を実施。本園が願う子どもの姿は、「遊び込むこと」と、「自分も人も大切にできる子どもに」なってほしいこと。

○　子どもたちには主体性を持って、様々な熱中できる遊びを体験して欲しい。色々な人との生活や遊びを通して、自分は愛されていると実感し、やがて他の人のこともの自分のことのように感じられる子どもに育って欲しいと願っている。これらを大切にしながら、10 の姿などを園内で検討した。

○　②小学校との交流について、まずは校長先生との意見交換を実施。就学準備の必要性ではなく、「やってみたいという気持ちを育てること」「困っている時に困っているといえるような心が育っていること」「複数回の交流を行うこと」が大切であることを校長先生と確認した。

○　これまでの交流は、11 月と12月に 1 回ずつ実施した。11 月は小学校を体験することを目的に、1 年生の生活科の時間に参加させていただき、近隣の森で一緒にどんぐり拾いなどを行った。12 月は、交流会として、おはじきやあやとりなどの昔遊びを楽しみ、その後に 1 年生の授業参観をさせてもらった。

○　小学校との交流後、クラスで小学校訪問の振り返りの時間を設け、「小学校ではどんなことをしていたか」「かっこいい小学生になるにはどうしたらいいか」など、子どもたちからの意見を引き出し、それをクラスの

壁に掲示することにした。また、2 月中に再度の訪問を計画しており、次回は、事前に何をしたいかを園児に聞き、目的を持って参加させるようにしたい。

○ ③月案の作成では、「予想される子どもの姿」の項目に 10 の姿を当てはめることとした。子どもの姿を 10 の姿に当てはめて考えると、足りなかった部分が見えるようになり、翌月以降にどのように子どもに声掛けしていくのか、どのように遊びを発展させていくのかなど、保育士同士でも深く考えられるようになった。

○ 月案作成をするにあたって、子どもたちが今夢中になっている遊びを再確認することができ、保育士が、遊びの発展のために子どもたちの学びのために何ができるのか、何を準備したらよいのか以前よりも意識できるようになった。保育園でただ遊んでいるだけではなく、遊びは繋がっていて、そこから学ぶことも多く、保育士はその手助けをする事が大切だと思った。

○ 今後の課題として、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムをもとに、小学校と継続的に係わっていくことと、考え方を共有していくこと。また、就学に向けて、保護者に保育園の考え方をどう伝えていくかが課題だと思っている。

○ モデル実施園の取組みを通して、子どもたちが「遊び」の中で多くのことを学び、10の姿が大きく育っているイメージを抱くことができた。次年度以降、さらに子どもたちが、安心できる環境の下、いろいろな遊びに対する興味関心を抱き、チャレンジすることができるよう、保育者として準備をしていきたい。

近隣小学校からのお話（若松小学校　根本校長）

○ 小学校に入学する子どもには、やってみたいという気持ちと、困っていることを言えることが大事だと思う。文字や数字を習ったりということは、小学校入学後に学習指導要領に沿ってしっかりと教えていくので、入学前にできていなくても問題ではない。

○ 若竹保育園の保育方針である「遊びは学び」は、まさにその通り。遊びの中で、子どもは多くのことを学んでいく。何をして遊んでいくかの自己決定力、人との関わっていく中での調整力、人を大切にする気持ちなど。

○ 小学校の体育で言うと、低学年では種目を勉強するのではなく、「跳び箱あそび」など「〇〇あそび」という学習を行う。これは、技能を学んでいくというよりも、遊びの中で多様な動きをしていくことが大切という考え。その「〇〇あそび」の中で、自分たちが何をできるのか、どうしたら楽しく運動できるのかを子どもたちが学んでいく。ここで培ったものが、その後の運動能力にもつながるし、他教科での成果にも関係してくる。

○ これまで「主体的に運動を楽しむ子どもを育てる低学年の体育」というテーマで、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を研究してきた。そこでも、幼児期の運動経験が小学校生活にも影響してくるという研究成果も出ている。

○ 若松地区は小学校から高校まであるが、地域を愛して地域に貢献できる大人に育てていくのが小学校の役目と考えており、その初期段階の幼児期と小学校期をうまく連携していけたらと考えている。

カリキュラムコーディネーターからのお話（千葉大学教育学部　砂上史子　准教授）

○ 幼稚園教育要領や保育所保育指針などで国の基準が変わっていく中で、ただ国の基準に合わせるだけではなく、各園ごとの創意工夫で、園の良さをさらに良くしていくためにどのように自園の保育に落とし込んでいくかが何より大事になる。

○ 今回の改訂の目玉として、幼児教育と小学校教育の接続に主眼が置かれていることがあり、それを具現

化したものとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がある。これは到達目標ではなく、あくまで方向目標として、幼稚園教諭や保育士が持つ観点となるものである。「育ってほしい」という保育者の願いを示した意味合いを大事にしてほしい。

○　保育者の願いとして毎月の指導計画に落とし込まれていることが重要であり、各園それぞれの記載方法で作成していただきたい。そして、作成に至るまでの間に、自分たちの保育が大切にしていることにあらためて気づいていく、そのプロセスを大切にしていただきたい。プロセスについて、一部の先生だけではなく、園全体で共有しながら計画的に行っていくことが重要で、保育所自身も主体的に楽しんでいけると良い。また、指導計画を作成して終わりではなく、実際の援助・配慮や教材の研究などにも落とし込んでいくことが必要である。

○　若竹保育園と若松小学校の交流では、お互いの考えをすり合わせていくことが具体的にできていたように思う。保育園から小学校に行って、小学生の様子を具体的にわかることができ、それを踏まえ、保育所の生活にも活かしていくことができる。今年度の活動を振り返り、また来年度以降にも卒園時の姿を追っていくことで、継続的な取組みにつながっていく。

質疑応答

Q：月の様子を写真を交えながら、また 10 の姿を記載してまとめているのは、大変わかりやすくて素晴らしいと思う。月案のほかに、週案・日案などは作成しているか。

A：週案・日案はなく、月案の中に行事予定なども記載しながら、全体の管理を行っている。

Q：新たに示された 10 の姿は項目としてやや多いようにも感じてしまうが、保育の中でどのように意識しているのか。

A：月案には、10 の姿をすべて書き出してあって、すぐに確認できるようにしてあるのと、予想される子どもの姿の欄に、どの姿を見られそうかを記載して意識できるようにしている。

≪アンケート結果≫

1　参加者情報（アンケート記入者）

私立幼稚園（認定こども園）	民間保育園（認定こども園）	公立保育所（認定こども園）	小学校	その他	合計
10	41	21	9	8	89

2　公開研修会の内容について

①大変参考になった　②参考になった　③あまり参考にならなかった　④参考にならなかった　⑤どちらともいえない　⑥未記入

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
千葉市の幼保小連携・接続の取組み	49	36	2	1	0	1	89
モデル実施園の取組成果発表	72	16	0	0	1	0	89
近隣小学校からのお話	52	33	2	0	1	1	89
ｶﾘｷｭﾗﾑｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰからのお話	58	26	3	0	1	1	89

3　公開研修会全体について（理解の深度）

①そう思う　②まあそう思う　③あまりそう思わない　④そう思わない　⑤未記入

	①	②	③	④	⑤	合計
幼保小連携・接続への理解	63	26	0	0	0	89
取組みにおける理解	55	34	0	0	0	89
カリキュラム作成・見直しの参考	67	18	0	0	4	89

4　最も印象に残った内容／カリキュラム作成・見直しにあたり参考になった内容（抜粋）

- 年長組の保育室の中にも小学校への接続のヒントがあり参考になった。
- 月案の裏での反省で写真を入れることでよりわかりやすく、まとめられていると感じました。
- 自然遊びを取り入れて、こどもの何故？を沢山みつけて、考える内容になっていたと思います。遊具で遊ぶよりも、自然物で遊ぶ子が多く、素晴らしい環境を取りいれた保育だと思います。
- 10 の姿を5歳児前半から意識し、後半に AC とする考え方は子供の成長・育ちをより把握しやすいのではないかと思った。小学校との交流も、単なる交流としてではなく、相互理解の場として充実を図ることが重要だと感じた。
- 10 の姿という具体的なめざす姿を計画・反省にいかしていることがすばらしいと感じました。またそこが最後のゴールではない、そこを達成させることにこだわってはいけないと、その子に寄り添った言葉にも感動しました。
- 10 月からのカリキュラムの作成を見て子どもの姿に、10 の姿をかきこんで足りなかったものを、次月に考えていくという内容に関して保育所でも行っていきたい。小学校との交流後、子どもにどんな小学生になりたいか投げかけそれを可視化しているところ、ぜひ自分の保育所でもやっていきたい。
- 校長先生からのお話で「やってみたい」という気持ちを育てること、困っている時に「困っている」と言えることというのが大切であるということをお伺いできて少し安心しました。小学校との交流をすることで、子ども自身が自分で感じて安心したうえで、保育所・幼稚園で小学校入学までに取り組むことを考えていくことが大切だと感じた。
- 保育の振り返りで 10 の姿という具体的な内容があると、職員間でも観点がはっきりして、よいと思った。近隣の幼保のアプローチカリキュラムを事前に知ることができれば、小学校でのスタートカリキュラムに生かすことができるのではないか。小学校での4．5月の計画が具体的になる。

5　研修会全体に対する意見・感想（抜粋）

- 年長の先生の子供に対する熱意を強く感じました。今回学んだことを自園に持ち帰り参考にしたいと思います。
- 小学校の接続という部分で、訪問が1回だけでなく複数回行くことで子どもたちも就学に不安が少なくなると感じた。また、子ども達からも意見を言うことで期待が持てると感じた。
- 自然に恵まれ、広い園庭・遊具・園舎はもちろん、すばらしい先生方、環境に恵まれ、ここで育つ子ども達は幸せだと感じた。年長の子どもたちが礼儀正しく、「こんにちは」とあいさつしてくれうれしかったです。
- 指針等の改定により、今まで以上に幼保小接続が注目されるようになってくる中で、国で示されたものをどうやって自分の園に落としこむかが大切だという砂上先生の言葉が印象に残りました。
- 幼稚園とは違って、あそぶ時間がたっぷりあるのであそびを途中で止める事がないのであそびへの発展が充分にできて、それが生きる力に結びつける事が本来持っている子ども達の力が限りなく生まれる事がとても良いと思いました。